

高い技術と経験を備えた医師、スタッフ、設備の総合力で脳卒中の予防、治療で地域に貢献する

豊山 弘之 院長

とやま・ひろゆき
 1993年、東海大学医学部卒業。同大学脳神経外科入局。2005年、志太記念脳神経外科開院。日本脳神経外科学会認定 脳神経外科専門医、日本脳神経血管内治療学会認定 脳血管内治療専門医



当院で手術を行う福島孝徳医師(右)。院長(左)

脳動脈瘤は早期発見・早期治療でリスクを減らせる

脳

外科医の仕事は、脳梗塞や脳卒中の実際の発作が起きてしまつてからの治療と、脳ドックによる検査などで将来の病気の芽を見つけ、それを事前に摘み取つてしまう予防的治療の2つに分類できる。志太記念脳神経外科の豊山弘之院長は、その中でも特に予防的治療の大切さを強調する。

「現在、脳卒中の中で一番多いのは脳梗塞です。そのため脳梗塞のリスクをどれだけ減らすことができるとかは、脳神経外科に課せられた大きな主題だととらえています。脳卒中のリスクを軽減する方法は、高血圧症、糖尿病、高脂血症など、脳卒中のリスクを高める疾患を予防するために患者さん自身が生活習慣の改善を図る方法と、血液検査といった内科的検査や、MRI(核磁気共鳴画像法)など脳の中の画像撮影を行つて自覚症状がない病巣を早期に発見して治療につなげるという方法があります。この、画像を見て診断するという部分が、まさに脳神経外科専門医の出番となるわけですが、遺伝的要素もあり、生活習慣の改善だけではリスクを減らすことができません。さらには検査で発見することで予防的治療を行うことができる脳動脈瘤の発見は、脳神経外科

にとって一番大きな仕事のひとつだと思っています」

脳神経外科に特化した医院ならではの強みがある

脳

動脈瘤が破裂すれば、くも膜下出血につながる危険性が高まる。以前豊山院長が地域の1万人余りを対象に調査したところ、脳動脈瘤の保有率はおよそ2・7%。脳動脈瘤の破裂率は年間で1%程度であるため、およそ10万人に20人程度の割合で脳動脈瘤の破裂によるくも膜下出血を起こしている計算になったという。脳動脈瘤の大きさと患者の年齢などによっては経過観察となる場合もあるが、将来破裂する可能性が高いと判断された場合には、通常、予防的手術が行われる。そうした手術を受ける際、脳神経外科に特化した医院ならではの強みが出てくると、豊山院長は強調する。

「脳動脈瘤の手術法には、開頭して脳動脈瘤の頸部をクリップで閉鎖して血流を遮断するクリッピング術と、カテーテルを用いた血管内治療の一種で、脳動脈瘤の中にコイルを詰めて血流を遮断するカテーテル下コイル塞栓術という、大きく分けて2つの方法があります。当院では安全性、再発や合併症のリスクなどを勘案して、患者さんにとって最もリスクの少ない手術法を選択していますが、手術法

の選択肢を複数提供できるというのも、当院の強みの一つといえます」

また、志太記念脳神経外科の場合、検査や手術に用いられる機器も、脳疾患に特化された機器を備えている。既存のオープン型MRIに加え今年新規導入予定の最新型MRIをはじめCT室一体型インタージェント手術室、手術ナビゲーションシステムなどが整えられており、その設備の充実ぶりなどから神の手と称される福島孝徳医師が日本で手術を行う際の医院の一つにも指定されている。

「質の高い治療を行うためには、一人の外科医の力だけでは限界があります。求められるのは、医院の総合力。医療専門資格者はもちろんのことその他のスタッフ全員が病気に対してプロでなくてはならない。その点、当院の場合は特定の症例を数多くこなすわけですからおのずと経験値が高まり、個々のスタッフの的確に判断して動き、スキルも高められます。今までの症例と比較することで、異変にいち早く気づくこともできる。当院の術後の合併症の低さなどはそうした総合力の高さがあつてのことだと思っています」



免震設計された検査棟を増築中(完成予想図)

〒425-0073
 静岡県焼津市小柳津371-1
 TEL: 054-620-3717
<http://www.myclinic.ne.jp/shida/pc>
 外来診察受付時間: 9:00~12:00
 15:30~17:30
 休診日: 火午後(手術のため)
 日・祝・土午後